

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されることがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
本市	16.16	19.89	34.46	41.16	50.80	9.47	152.45	22.02	54.09

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
本市	15.73	18.70	38.63	39.23	39.35	9.75	144.11	13.51	54.98

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
本校の児童は、スポーツクラブに所属している児童の割合が男女共に全国平均と比べて高く、体を動かすことへの関心や意欲が高い。日常的に運動に親しんでいる児童が多く、体力向上の基盤は整っていると考えられる。一方で、健康を支える要素である食事・休養・睡眠への意識には課題が見られ、運動と生活習慣を関連付けて捉える理解が十分とは言えない状況である。今後は、運動の充実に加え、食事や睡眠の重要性についても指導を充実させ、健康的な生活習慣を総合的に身に付けさせていく必要があると感じた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

運動パフォーマンスと生活習慣の関わりについて振り返る活動を授業内に位置付け、自分の生活を見直す機会を意図的に設定することが重要である。体育科の授業後に「昨日の睡眠時間は十分だったか」「朝食を食べた日は体の動きに違いがあったか」などを振り返らせ、体の動きと生活習慣を関連付けて考えさせるなど指導方法を工夫する。
--

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

すべての児童が継続的に体を動かすことができる取組を充実させることが重要である。体育の授業において運動量を確保するとともに、個々の体力や技能に応じた目標設定を行い、「できた」「伸びた」と実感できる振り返りを重視する。また、単元の導入やまとめて自己の運動習慣を振り返らせ、家庭でできる簡単な運動(ストレッチや縄跳び、体幹運動など)を紹介し、継続につなげる。
--